

がんの増殖と中心体異常の細胞形態学的な把握とメカニズム解明に関する研究

1. 研究の対象

2002年1月～2019年12月に当院外科で乳癌の手術が行われた方

2. 研究目的・方法・期間

※この研究について、すでに承認されておりますが、今回研究内容の一部を変更しましたので改めてお知らせ致します。

がんは日本国民の死因第一位と、身近な病気ですが、その異常な増殖のメカニズムの全貌は明らかになってはいません。がんは、体細胞にDNAの傷が集積し、がん関連遺伝子の活性化もしくは不活化の蓄積が生じて発生すると考えられています。また、ヒトの正常細胞は通常は23対の染色体からなる二倍体であるのに対し、がん細胞核には染色体数・DNA量の増加（異倍数体など）や構造の変化（コピー数増多や減少、転座）も認められ、正常細胞とは大きく異なっています。このような異常な量や質の染色体やDNAを持ちながらがん細胞が分裂を継続して増殖し続けられる機構については不明な点が多くあります。

中心体や微小管は、細胞分裂の際に重要な役割を果たすとされる細胞小器官で、がん細胞は中心体の数、大きさ、位置の異常をしばしば示します。本研究では、がん細胞がこのような装置に何らかの改変が起こっているにもかかわらず、増殖し続けることができる理由を知るため計画されたものです。

本研究の研究期間は学校長承認後から令和8年（西暦2026年）9月30日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病理診断情報、乳癌サブタイプ分類、抗がん剤治療の治療歴、予後 等

試料：手術で摘出した組織（パラフィン包埋組織） 等

4. 研究に用いる試料・情報の管理者

試料・情報の利用については、研究用のID番号を作成し、直ぐには個人を特定できないように加工したもの（仮名加工情報）を作成します。作成時の情報については研究責任者が厳重に管理します。また、加工後の情報についても、この研究に参加する研究者のみで利用します。

5. お問い合わせ先

資料 3

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 病態病理学講座 研究科 加藤 貴美（研究責任者）

防衛医科大学校 病態病理学講座 教授 津田 均

住所：埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1211

（内線）2277 又は 2278（対応時間：平日9時～16時）